

平成30年12月16日(日) 日本を美しくする会

第262回 益田掃除に学ぶ会 お掃除通信

開催場所 吉田小学校

校長 領家 芳明

参加者数 17名

教頭 河野 直樹

1、代表世話人挨拶 山崎 純
今年も早いもので、あと2週間になりました。今日は参加の方も少し多くて喜んでおります。いつも話しますが明日子供さんが綺麗になったと感じて頂けるように今日も綺麗にしたいと思います。20数年間続けておりますが、高齢化しておりますが何とか300回を目指して市内の小中学校のトイレを綺麗にしたいと思います
2、体験感想発表
・長嶺 歩さん(吉田小学校教諭)
今日はありがとうございました。いつも男子トイレでしたが今日初めて女子トイレで綺麗になっていく様子を感じて良かったです。でも水垢がなかなか取れなくて心残りでもたリベンジしたいと思います。
・兒玉 未来さん(吉田小学校教諭)
今回は女子トイレでしたが、黒のリングが取れなくて悔しくて、時間が足りなくて、また挑戦したいと思います明日子供達がどんな反応するのか楽しみです
・末松 史菜さん(吉田小学校教諭)
初めての参加ですが、こんなに汚れているとは思いませんでした。でも、段々汚れが落ちていって気持ち良かったです。明日の子供たちの反応が楽しみです
・稲元 正敏さん(浜田市)
先週公民館を掃除しましたが、やっぱり学校をさせて頂くと色々な方が参加されていていいですね
・青木 邦江さん(益田市)
自分では上手になったと思っていましたが、指摘されて黒い汚れが出てきてまだまだだと反省しております

2、体験感想発表
・領家 芳明(吉田小学校校長)
今日はありがとうございました。平成最後の年に本校を選んで頂き喜んでおります。今日のトイレは3年生106人で一番多く利用しているトイレですから、タププリ汚れていて完璧にやったと思いましたが佐貴さんから横から見てと言われ、改めて綺麗にやり直しました
・河野 直樹さん(吉田小学校教頭)
益田小の時参加して2回目ですが、毎日綺麗にしないと汚れが落ちなくて綺麗になりませんから、日々きれいのが大切ですね
・齋藤 恭子さん(キューサイファーム島根)
久しぶりに参加しましたが、水垢が取れなくて残念だった空港マラソンの時の写真が市報に掲載されていますので観て下さい
・森 直雄さん(キューサイファーム島根)
便器は汚物を取ったら綺麗でしたが、むしろ周辺の汚れが目についてそちらの方をきれいになりました
・中部 尚樹さん(浜田市・キヌヤ)
今日は小便器を担当しましたが、凄い汚れで、途中、佐貴さんにアドバイスを頂き90点くらいの出来栄えだったと思います。結構大変で夏でなくて良かったです。デッキブラシは交換されたらどうでしょうか
・佐貴 弘さん(江津市)
長い間参加していないように思います、三隅道路が開通して今日初めて通ったものですから。益田に来ると新たな気持ちになります
・松崎 純次さん(益田市・キヌヤ)
手洗い場所をしましたが、どんよりした汚れで一列づつ1m位で終了しました。ストローが沢山ありますのでゴミ箱を準備されたらどうでしょう
・中島 明洋さん(中西中学校3年生)
スリッパと手洗をやりましたが汚れが取れなくて大変でした

4、鍵山秀三郎相談役 一日一話より抜粋
見えざるコスト
昔の人は、学歴が無くても見えざるコストに心を向ける生き方を一人ひとりがしていたように思いますところが、文明が発達して高学歴社会がすすむにつれて、この「予知能力」ともいうべき感覚が失われてきました。実際に事が起きて見なければわからないという風潮が蔓延してきました。この風潮は将来に大きなツケを回すことになるかと危惧しております。
率先してやる
良いと思った事や、このことは間違っていないと確信したことは、自分が率先して始めるべきです。デファクト・スタンダード(事実上の標準)という言葉があります。自分が率先して正しい規範を作り、それを示して行えば、真っ先に規範を作り示した人が一番強いという意味です。あとからやっても、それなりの力にしかありません。
5、森信三先生の教え 一語千鈞より
只管あいさつ
・お金に困らぬ人間になる工夫
1・大きなお金をくずすのは、一日でも先に延ばすこと
2・おれを逆さに入れたり、ハチあわせにしたりせぬこと
3・財布をいくつか持っていて、それぞれの用途や向きに応じて別々にしておくこと
・金銭は自分の欲望の為には、できるだけ使わぬように……
そしてたとえわずかでもよいから、人のために捧げること
そこにこの世の真の浄福境が開けてくる
6・平澤 興先生語録より
生きよう今日も喜んで
・人生に無駄がないことを知るには、やすらぎの中にもおそろしいほどの鋭敏さと、限りない真心と燃えるような実行力が何よりも大切である。
・つまらん遠慮をせず、いらん気をつかわず、自分の信ずることを堂々と実行しなさい
・ダンテの神曲にある。「汝は汝の道を行け、人の語るにまかせよ」
・生の目で生の心で、相手の生の心を見出し切らねばならぬ。それはただの経験だけではいけない。